

TEST 02

主要メーカー
最新アイロン
6製品テスト

Iron

スチーム力のティファールからは、コードレスにもなる2WAYタイプが登場した。使い勝手を強調する国産ブランド製品など合計6機種を徹底比較する



スチーム力の「コードタイプ」と使いやすい「コードレス」。本当に使えるアイロンはどれだ！

誰も教えてくれなかったプロの目で見たアイロン選びの4つの極意

アイロンは一度買ったからなかなか買い換えない商品にもかかわらず、機種選びの指針があまり知られていない。販売するメーカーもそれほど多くはなく、A.V.機器やキッチン家電のように、新たな機能が追加されていきつぎと新しいモデルが登場することも多い。事実、今回リストアップしたメーカー以外にも、アイロンを発売している

メーカーはあるが、2年以上前製のものが多くない。あまり積極的な製品開発がなされていない。そこで今回はティファール、東芝、パナソニックの主要メーカーのコードタイプとコードレスモデルをセレクトして、比較検証してみた。アイロンのテストと選び方の指針は、ヤマサワプレスさんの山澤亮治さんにお話を伺った。まずアイロン選びの重要なポイントが4つあった。それは、しわをのばすのに重要な役割を果たす「スチーム」、面のかけやすさを決める「大きさ」、



検証したのはこの人
アイロンの達人 山澤 亮治さん

ヤマサワプレス代表、アパレルメーカーの工場から上がってきた製品を、アパレルなどの納品前にプレスをかけて仕上げるアイロンのプロ。TVや雑誌、講演などで情報を発信している。

アイロン選びのチェックは4点！



1 スチーム

しわを伸ばすにはスチームの力をもっと重要。こまかい水蒸気が繊維に入り込むことでしわが伸ばせる。スチームの量と強さ、細かさなどのスチームの質についても見る。



2 大きさ

コードレスタイプはコンパクトなものが多いが、重要なのはかけ面の大きさ。かけ面が大きい方が、シャツの背中など広い面を少ない移動量でかけられるので、疲れにくい。



3 重さ

しわを伸ばすためには、上からある程度の圧力をかける必要がある。そのためアイロン自体に重さがあるほうが、力を入れなくて済み、アイロンの重さを使って動かせる。



4 すべり

すべりは実際にアイロンをかけたときのかけ心地を決める重要な要素。すべりがよく、すっと動いて、しわがきれいに伸びた仕上がりのいいものももっとも気持ちがいい。

ティファールのスチーム力とコードレスの便利さ

ティファール
2WAYコード
FV7020
実勢価格 1万2800円

●消費電力：1200W ●電源：100V ●ボタンプ
容量：約200ml ●かけ面：特殊セラミック ●湯
かスチーム機能：有（ジェットスチーム） ●本体
寸法：高さ295×幅120×奥行140mm（コード付
時） ●本体質量：1.3kg（コード付時）

総合評価
A

●テスト結果
大きい面のかけやすさ ★★★★★
細かい面のかけやすさ ★★★★★
すべり ★★★★★
スチーム ★★★★★
仕上がりが具合 ★★★★★



ケースに入れた状態で比較すると今日のラインアップ中最大の大きさ



かけ面にはスチーム孔数が64個で、25g/分の通常のスチームと90g/分のジェットスチームを備えている



スイッチ部はシンプルにアイロンの全機能を1つのボタンで操作

ティファールのウリである強力なスチームと、コード部分が外れてコードレスとしても使える2WAY。今までにない独自のスタイルでかなり便利だ。

コード付きタイプと同じサイズのただでさえ大きいボディに、置き台とケースまでつくので相当に大きくなってしまふ。収納場所には困りそう。

スチーム力No1の汚れに強いクリーン加工

ティファール
アルティメット
オートクリーン
実勢価格 1万6800円

●消費電力：1400W ●電源：100V ●ボタンプ
容量：約250ml ●かけ面：オートクリーン ●湯
かスチーム機能：有（ハイパーショット） ●本体
寸法：高さ305×幅155×奥行150mm ●本体質量
1.9kg

総合評価
B

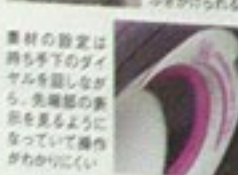
●テスト結果
大きい面のかけやすさ ★★★★★
細かい面のかけやすさ ★★★★★
すべり ★★★★★
スチーム ★★★★★
仕上がりが具合 ★★★★★



ハイパーショットとパーチカルスチーム、霧吹きがスイッチが使いやすい



かけ面には70個のスチーム孔があり、強力なスチームを効率的にふきかけられる



素材の安定は持ち手下のダイヤルを調節しながら、先鋒部の表示を見ようによって調節がわかりにくい

最大95g/分の強力なハイパーショットは、繊維の奥までスチームが浸透。かけ面にはパラジウムをコーティングして、汚れが残りやすく手入れが簡単。

スチームが豊富でタッチがわかりにくいってコードレスのデメリットになる。コードが邪魔になる。

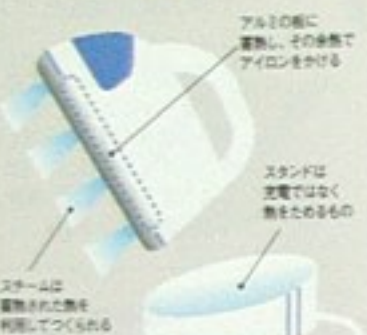
プレスを楽にする「重さ」を、そしてかけ心地を決める「すべり」だ。イメージとしては軽くて小さい方が使いやすいと思うが、アイロンがけにはある程度の重さがあったほうが、力を入れなくてもしわがのびて楽に使えるという。サイズも大きい方が広い面をかけるには動かす量が少なくて楽だろう。またアイロンにはコードタイプとコードレスがあるが、そのセレクトの違いは、用途や目的の違いで決まるといえる。コードレスは手軽に使えるが、スチーム量が少なく、仕上がりが悪くなる。一度に大量のスチームをかけるにはコードタイプを選べばいい。そのあたりは使用頻度と目的によって、どちらかをセレクトする必要があるのだ。

今回はこれらのポイントを中心に、実際に製品を使ってもらい、プロから見たリアルな使い勝手についてテストしてもらった。

Special Topic

コードレスアイロンはただの蓄熱！

コードレスというと、ケータイ電話のように充電式のバッテリーを搭載しているかのイメージを持つが、アイロンはまったく違う。バッテリーを搭載しているのではなく、アイロンの中にあるのは蓄熱用の板。電源からの熱を板にためて、その余熱を利用するのだ。スチームもそこに水をかけたときにおきる水蒸気なので、大量の水をかけると蓄熱板の温度が下がってしまう。だから構造的にコードレスにスチーム力を求めるのは難しい。対策としてはこまめに蓄熱する程度だろう。



アルミの板に蓄熱し、その余熱でアイロンをかける

スタンドは充電ではなく熱をためるもの

スチームは蓄熱された熱を利用してつくられる

テスト方法 / 評価方法



大きい面のかけやすさ



細かい面のかけやすさ



すべり

かけ心地を決定するすべりは、かけ面の表面処理と重さのパラメータが重要。実際に動かすときは、スムーズに動かすために、このように動かすことが重要だ。

スチーム

スチームが豊富で浸透するほどしわが伸びやすくなる。スチームのパワー、持続力、また、細かい面を効率的にスチームがけられるように、このように動かすことが重要だ。

仕上がりが具合

スチームを使ってアイロンを動かすとき、きれいにしわが伸びるかどうか、力がかかりすぎないか、アイロンの重さや、その仕上がりが具合をプロの視点でチェックする

総合評価

すべての項目が満点か満点がなかったら、各チェックポイントの順位を比較し、総合的に評価して、20点を満点とする。5点以上で、それ以下を満点としている

達人に教わる
アイロンのコツ



アイロンがけの基本であるYシャツのかけ方を達人に聞いた。まず手順は大きく分けて以下の4つ。ポイントはいちばん目立つところは後にすることだ。Yシャツの場合は、襟元がいちばん目立つのでそこを最後にする。アパレルプレスの世界では、ごく自然の仕上がりをするために、袖などに折り目をつけないそうだ。達人のアイロンがけはアイロンをもたない手でしっかり生地を引っ張り、本体の重みですっと動かしている。このあたりがコツとのことだ。

1 まずは袖口から袖に



袖口のカフス部分を内側からかけたら、つぎは袖の縫い目、そして袖を両側の生地を引っ張りながらしわにならないようにかけていく。折り目をつけないように注意すること

2 大きい背中には二分割



背中のように広い部分は、一気にかけないであとを分けてかける。広い面をかけるときにはなるべく重みですらすら、背中にある縫い目やプリーツなどもここで処理する

3 前身頃はボタンまわり



前身頃はまず大きな広い部分をかけた後、つぎにボタンについているしわをかける。ボタンの周りを丁寧にかけて、最後に一番外側にくるボタンホール部分のしわを仕上げている

4 いちばん目立つ襟元



襟元は最も目立つ部分なので最後に、後ろの生地を引っ張りながら、襟の部分を仕上げている。襟のしわは、いちばん目立つ部分なので丁寧に仕上げている

総合評価
C

大きく厚手の生地はいいが
細かい部分がかけにくい

パナソニック
NI-R80
実勢価格/1万4800円

●消費電力/1400W ●電源/100V ●ホタテク容量/約300ml ●かけ面/新多層ミラーマジックベース ●強力スチーム機能:有 (ハイパワーショット) ●本体寸法/長さ300×幅130×高さ150mm ●本体質量/1.7kg

●テスト結果
大きい面のかけやすさ ★★★★★
細かい面のかけやすさ ★★★★★
すべり ★★★★★
スチーム ★★★★★
仕上がり具合 ★★★★★



ステンレスにニッケルコーティングをしたミラーマジックベースを採用。軽いすべりで汚れがつかない



スイッチ部のデザインや構造は伝統的につくりになっておりわかりやすい



通常スチーム、パワースチームのほかに、霧吹き状のスプレー機能も備えている

大型のベース面を採用しており、適度な重さがあるので、シャツなどの大きなものも効率よくアイロンがけできる。スチーム力もかなり強いのがいい。

スチームは強いのだが連続して出ないので、強力スチーム機能多用するのはストレスがかかる。また細かい部分の処理がかなりやりにくい形状だ。



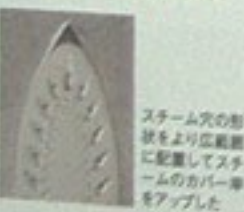
総合評価
C

機能的には多彩だが
仕上がり具合が弱い

パナソニック
NI-CL606
実勢価格/1万4800円

●消費電力/1400W ●電源/100V ●ホタテク容量/約300ml ●かけ面/ディンプルミラーマジックベース ●強力スチーム機能:有 (ハイパワーショット) ●本体寸法/長さ210×幅90×高さ120mm ●本体質量/1.0kg

●テスト結果
大きい面のかけやすさ ★★★★★
細かい面のかけやすさ ★★★★★
すべり ★★★★★
スチーム ★★★★★
仕上がり具合 ★★★★★



スチーム穴の形状をより広範囲に配置してスチームの威力をアップした



スプレーが霧状にムラなく広がる「マイクロスプレー機能」を搭載しパリッと仕上げられる



コンパクトで収納性もいいので、その都度頻りに出し入れて使っても悪にならない

よくいえばコードレスアイロンらしい製品で、コンパクトでオーソドックス。スチームも比較的強く、細かい粒子の霧吹き機能などもあり機能面は充実。

ベース面の小さく重さもあふつうにかけた仕上がり具合が非鉄や麻などはしっかりかける必要



●テスト結果
大きい面のかけやすさ ★★★★★
細かい面のかけやすさ ★★★★★
すべり ★★★★★
スチーム ★★★★★
仕上がり具合 ★★★★★

総合評価
A

超硬質素材ボロンで
圧倒的なすべりを実現

東芝
TA-GX110
実勢価格/1万7800円

●消費電力/1200W ●電源/100V ●ホタテク容量/約260ml ●かけ面/ビップボロンベース ●強力スチーム機能:有 (ハイパワーモード) ●本体寸法/長さ302×幅130×高さ151mm ●本体質量/1.0kg



コードは本体に収納できるので、サイズは大きいものの、本体をしまっておくには邪魔にならず便利

コードタイプ



スチームも強く連続性があり、圧倒的なすべりのよさが気持ちよく、しかも重さだけがきれいに伸びる仕上がり。文句なく優れた使いやすさを実現した製品だ。

独特のデザインと底部のコードリールによって、本体はだいぶ大きく感じられてしまう。スイッチ類はコンパクトにまとまっているが、表示が小さく若干使いづらい。



101個のスチーム孔で広範囲に噴出する強いスチームと、しっかりとした重さでプレスがかかりやすい



スチームモードで10秒間連続ショットできることで、ハンガーにかけたままスチームがけするのにも便利

総合評価
C

コンパクトでも強いスチーム
小物用に割り切るなら
イチオシ

東芝
TA-FV51
実勢価格/4800円

●消費電力/1200W ●電源/100V ●ホタテク容量/約80ml ●かけ面/チタンダイヤモンドコート ●強力スチーム機能:有 (倍速ショット) ●本体寸法/長さ213×幅104×高さ117mm ●本体質量/0.8kg



ケースにすっきりおさまるコンパクトボディは、出し入れも簡単で使いやすいサイズ

コードレス



小型コードレスながら、それなりに強いスチームと、すべりのいいかけやすさは特筆すべき。ハンディで使いやすいため小物衣類用途なら、この製品はイチオシできる。

コードレス特有の水分垂れもある。また仕上がり具合が弱く、シャツをしっかり仕上げなければならず、疲れてしまう。そのあたりの割り切りは必要。

●テスト結果
大きい面のかけやすさ ★★★★★
細かい面のかけやすさ ★★★★★
すべり ★★★★★
スチーム ★★★★★
仕上がり具合 ★★★★★



ディンプル加工と適度な重さによるすべりのよさが非常に印象的だった



スイッチはシンプルにまとまり、スチームボタンによるスチーム力はコードレスながら強く感じる

るものの、スチームの強さやすべりの良さは評価。一人暮らしで使いやすいかもしれない。コレが欲しい。最後はパナソニックの製品だが、これはどちらのタイプもあまり高評価が得られなかった。大きい面のかけやすさや、すべりなどは標準的だったものの、コードタイプは「細かい部分のかけやすさ」、コードレスは「スチーム」が非常に低評価である。

東芝のコードタイプは圧倒的な高評価で最高得点をマーク。テストは達人に指導して鉄板機にかけたままのYシャツを使ってテストしてもよかった。まずティファールの2WAYコード。今までのコードタイプ製品から、コード部分の構造で「コードレス」として使えるというモデル。スチーム力が必要なときはコードでやり、細かい部分はコードレスで。という使い分けができる。いいと悪いの両面が、ただでさえ大きく、ティファールのモデルが、スタンドとケースでいっそう大きくなった。使い勝手もよく、テスト結果も優れているが、収納場所を減らす。むしろコードタイプのアルティメットオートクリーンのほうが、余計な機構がない分、コンパクトに見える。ティファール製品はやはりスチーム力があるので、仕上げの具合もきれいだった。

つぎが東芝の製品。実は同社はアイロンには力を入れており、積極的に新製品を投入し続けている。とくに高価格帯のものは、実際にかけてみたときのすべりに定評がある。達人もコードタイプのアイロンがけをした瞬間に驚賞。スチームも強く、持続時間も長い。しかもアイロンの重さだけできれいにのびる。コードの処理も万全だ。一方、低価格帯のコードレスモデル。スチームの水が垂れやすいというコードレスならではの欠点はあ

写真/三浦勇之
テキスト/漢口彩作